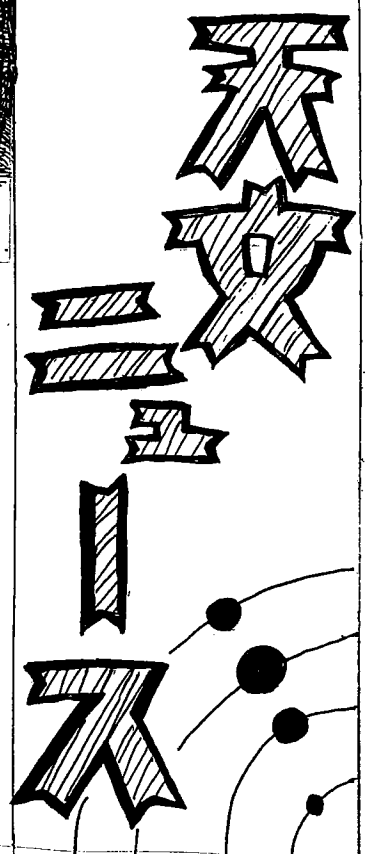


8000年に一度のお酒

「お酒が噴出する彗星
ラウジヨイ彗星」
ラウジヨイ彗星はアマチュア天体ファンが観測した彗星です。ラウジヨイさんによって発見されました。ラウジヨイさんは2007年に2つ、2011年に1つ、2013年に1つ、2014年に1つ彗星を発見しています。

「ここでは2011年、2014年の彗星についてまとめます。まず2011年に発見された彗星についてです。この彗星は、太陽光球面から13万km(※太陽半径は70万km)の太陽大気のコロナの中を通過したにも関わらず、蒸発も衝突もしませんでした。(※コロナの温度は100万K以上です。)

次は2014年に発見された彗星についてです。この彗星はアルコールや糖類などを噴出して、特にアルコールは大人が飲んでいられるアルコール成分とほぼ同じでした。1秒間に375000mLも噴出して、これはビンのワイン(750mL)の500本と同等な量を噴出していることになりました。また、この彗星はアルコールの雲からやつてきていて、もし今後帰帰するならば8000年後になります。

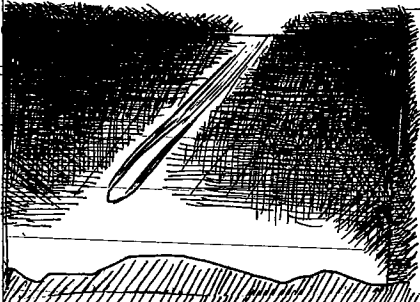


「このように宇宙の中には変わった星があると考えると、つくづく天文は面白いなうて思いました。」

※彗星の命名方法
彗星の命名は、発見者の名前が、発見報告の早い順に最大で3名まで付けられます。(一部例外もありあります。)

有名な彗星ハンター

- ・本田実さん：日本の彗星ハンターの先駆者。存在
- ・池谷薫さん：1965年に大彗星になった池谷関彗星の第一発見者
- ・関勉さん：池谷関彗星の第二発見者
- ・百武裕司さん：1996年に大彗星になった百武彗星の発見者



第四号 発行 天文部広報班

ISS観測

皆さんは国際宇宙ステーションを観察出来ることを知っていますか？今回は誰でも楽しめる国際宇宙ステーションの魅力をお伝えしたいと思います。

国際宇宙ステーションとは？

まず初めに国際宇宙ステーションとは何なのか簡単に説明していきます。高度400kmに建設されたサッカー場くらいの大きさの有人実験施設で、地球を一周約90分という高速なスピードで回っています。国際宇宙ステーションの目的は宇宙だけの特殊な環境を利用して様々な実験研究をし、そこで得られた成果を層進歩させることです。そして地上の生活や産業に役立てていくことです。

さばうとは？
さばうとは、国際宇宙ステーションを構成する部分のひとつで日本の実験棟です。き

「水星」
水星は、太陽系にある8つの惑星のうち、太陽に最も近い公転軌道を周回しています。岩石質の「地球型惑星」に分類され、太陽系惑星の中で大きさ、質量ともに最小の惑星です。

水星の自転周期は58.7日なので、水星の太陽日(水星表面から見た太陽の子午線通過の間隔)は176日になっています。また、水星は公転周期が約88日、「水星の1日」は「水星の2年」に等しいのです。つまり、水星のある地点での正午から次の正午までの間に、水星は太陽の周りを2回公転していることになります。

ところでみなさんは、JAXAとヨーロッパ宇宙機関

(ESA)による初の大規模国際協力ミッション「ベピコロンボ」をご存知ですか？
JAXAの水星磁気圏探査機「みお(MMO)」とESA

「新たな発見を求めて」
Aが開発した水星表面探査機「MPO」の2機の探査機で水星の磁場・磁気圏・内部表層を初めて、多角的・総合的に観測する計画です。

国際宇宙ステーションの見える時間と方向
国際宇宙ステーションを見る方向などの予測情報を簡単に確認出来ます！

もう終わってしまおう？
実はこの国際宇宙ステーション、2024年で運用を終えてしまおうと言われていました。なのでこの国際宇宙ステーションはあと4年で見る事が出来なくなるとも言われています。来なくなるかもしれないので今のうちに見ることをおすすめします。だれでも簡単に観察できるので日にちと時間があつた時に是非見てください！

国際宇宙ステーションの見える時間と方向
国際宇宙ステーションを見る方向などの予測情報を簡単に確認出来ます！

「これによって「惑星の磁気圏の普遍性と特異性」「地球型惑星の起源と進化」が鮮明にされること」が期待されます。
水星は太陽の強い重力下にあるため、探査機が水星に到達するには軌道変換に大きなエネルギーが必要になります。
「ベピコロンボ」は太陽の周りを何周も公転しながら地球・金星・水星で運動ベクトルを変換するスイングバイという技術を駆使し、2025年12月に水星に到達する予定です。

既に打ち上げは成功しているのに、これから解明される惑星の新たな事実を楽しみに待ちましよう！

今回の天文ニュースの内容はいかがでしたか？
8000年に一度のお酒、国際宇宙ステーション、水星探査なども目を引く内容だったと思います。

第4号は記事を2年生2人と3年生が1人、そこに編集3人を加えて合計6人で作成しました。
感染症により外出することがままならないこの頃ですが、どんな時でも変わらず空で輝いている星を眺めてみるのはどうでしょうか？
次号は文化祭特別号になります。ご期待ください。

